

平成30年1月22日  
アソカ学園 朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。  
【健康なからだ ・おもいやりの心 ・たくましい創造力】

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

幼児教育に対する考え方・保育方針を共通理解することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障する。更に、小学校との接続を通じた教育、並びに教員の資質向上に努めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	理由	自己評価
① 保育の計画性	園の教育方針及び、教育課程を共通理解し、日々の保育に活かすことを心掛け、実行に努めたため。	A
② 保育のあり方 ・ 幼児への対応	一人ひとりの子どもの表現を受け止め、子どもの立場に立った視点を尊重した保育を展開しているため。	A
③ 教師として資質 能力、適正等	教師としての役割及び自覚を持ち、組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めたため。	A
④ 保護者への対応	保護者の意見、要望などについては適時対応し、受入れ、改善していくように努力しているため。また、保護者も、園・職員に対して協調的である。	A
⑤ 地域の自然や社会 との関わり	園行事等において地域住民を招待し、近隣の中高生との連携や関わりなど積極的に行い、地域の自然や園内の自然環境の工夫を意識し実践した。	A
⑥ 研修と研究	園内研修及び幼稚園協会等の研修に参加し、職員間で新教育要領をテーマとした研修に取り組んだ。また、大学機関との研究の連携を推進し、保護者への周知を行った。	A
⑦ 外部アンケート	回答率も97%になり、回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かったため。また、改善できる点もあるので、今後努力していきたい。	A

\* 結果の表示方法 A 十分達成されている  
B 達成されている  
C 取り組まれているが成果が充分でない  
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

本年度も、昨年度の研究成果を基に朝田幼稚園独自の園内研究の継続を実施。本園の重点的課題の一つである「体力低下による幼児の運動あそびのあり方」について、保育方法及び健康医療の分野から研究を引き続き進めてきた。具体策として、①朝・帰りの時間を有効的に使い、運動あそびを実施し体力づくりを推進すると共に、全教員の教育環境に対する意識を高め強化を図った。②自然や戸外遊び・室内あそび・体育器具などを積極的に取り入れた保育を充実させることで、さらに「運動好きな子」を育てる保育を推進した。（健康医療系大学の継続調査研究結果でも前年度比よりも向上が見られるという報告を受けている）③運動場の芝生化により、自然や運動に対する意欲を高める環境づくりに努めた。

日々の保育についても、学年だよりの工夫や子どもの様子を詳しく保護者に伝えられるように継続。個人のシールノートへのコメントの欄は、担任から個々に一ヶ月の育ちの様子を伝え、また、家庭からの様子も園にお知らせして頂ける欄を設け、家庭と園との連携を密にとる方法が定着している。更に、保育参観（自由参観日）を増やし、教育・保育の「見える化」を推進。

教職員における「保護者対応」の難しさを実感する場面は増えている。時代や価値観の多様化もあるため、更なる研修体制を強化したい。

今後も重点課題は増える一方であるが、本年度の子どもの育ちから、子どもを取り巻く教育環境の発展や対応、並びに保育内容の創造に努力することを確認する。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成・実施に関して、職員の共通理解を図る	平成30年度施行である新教育要領の内容を受け、教職員で理解し、毎日の保育と子どもの育ちに添わせるよう、情報交換を密に行い取り組んでいく。クラス運営を含め、教員の働き方を見つめ、職務の改善を行う。
園庭での園児の遊び・安全管理の共通理解	子どもたちの遊び方に伴い、安全管理について教職員で再検討をしながら話し合いの機会を多く持っていく。過去にあった怪我などの事故報告書を教訓とし、職員の意識を高め、園児の安全確保に努めていく。
保護者に幼稚園の活動をより良く知ってもらうための広報活動の充実	幼稚園における行事や活動及び、園児の成長等を広報することで、幼稚園で育つ子どもの姿を知ってもらい、子育て支援活動の一環として情報を発信していく。また、保護者との意思の疎通をより活発に行えるよう、一層の努力をする。個別懇談の機会を増やすなど、子育てについて話し合う場を持つ。

平成30年1月26日

学校法人アソカ学園 朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。  
 【健康なからだ ・ おもいやりの心 ・ たくましい創造力】

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

幼児教育に対する考え方・保育方針を共通理解することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障する。更に、小学校との接続を通じた教育、並びに教員の資質向上に努めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
② 保育の計画性	園の教育方針及び、教育課程を共通理解し、日々の保育に活かすことを心掛け、実行に努めたため。	A	季節に合わせたあそび（行事、お正月等）を取り入れており、園からのお知らせで知ることが出来た。 A
②保育のあり方 幼児への対応	一人ひとりの子どもの表現を受け止め、子どもの立場に立った視点を尊重した保育を展開しているため。	A	外国籍の子ども、発達、に合わせて個別に先生をつけてくれる。 A
③教師として資質 能力、適正等	教師としての役割及び自覚を持ち、組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めたため。	A	学園での研修や、個別に行っている研修など、教師が行っている研修の内容をお知らせしてもらえると分かりやすい。 A
④保護者への対応	保護者の意見、要望などについては適時対応し、受入れ、改善していくように努力しているため。また、保護者も、園・職員に対して協力的である。	A	意見を言える親ばかりではないので、言えない保護者の意見をもう少し汲み取ってほしい。 B
⑤地域の自然や社会との関わり	園行事等において地域住民を招待し、近隣の中高生との連携や関わりなど積極的にいき、地域の自然や園内の自然環境の工夫を意識し実践した。	A	父母の会主催行事の際に、近隣高校生のボランティアを集めたことで、高校生の将来への設計にも少し役立てたと思う。夏祭では自治会にも知らせしてほしい。 A
⑥研修と研究	園内研修及び幼稚園協会等の研修に参加し、職員間で新教育要領をテーマとした研修に取り組んだ。また、大学機関との研究の連携を推進し、保護者への周知を行った。	A	取り組みと報告がきちんとあってよかった。 A
⑦外部アンケート	回答率も97%になり、回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かったため。また、改善できる点もあるので、今後努力していきたい。	A	アンケートの内容に、自由項目（意見など）があると、より保護者の意見が聞けるのではないかと。 A

\* 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている  
 C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

本年度も、昨年度の研究成果を基に朝田幼稚園独自の園内研究の継続を実施。本園の重点的課題の一つである「体力低下による幼児の運動あそびのあり方」について、保育方法及び健康医療の分野から研究を引き続き進めてきた。具体策として、①朝・帰りの時間を有効的に使い、運動あそびを実施し体力づくりを推進すると共に、全教員の教育環境に対する意識を高め強化を図った。②自然や戸外遊び・室内あそび・体育器具などを積極的に取り入れた保育を充実させることで、さらに「運動好きな子」を育てる保育を推進した。（健康医療系大学の継続調査研究結果でも前年度比よりも向上が見られるという報告を受けている）③運動場の芝生化により、自然や運動に対する意欲を高める環境づくりに努めた。

日々の保育についても、学年だよりの工夫や子どもの様子を詳しく保護者に伝えられるように継続。個人のシールノートへのコメントの欄は、担任から個々に一ヶ月の育ちの様子を伝え、また、家庭からの様子も園にお知らせして頂ける欄を設け、家庭と園との連携を密にとる方法が定着している。更に、保育参観（自由参観日）を増やし、教育・保育の「見える化」を推進。

教職員における「保護者対応」の難しさを実感する場面は増えている。時代や価値観の多様化もあるため、更なる研修体制を強化したい。

今後も重点課題は増える一方であるが、本年度の子どもの育ちから、子どもを取り巻く教育環境の発展や対応、並びに保育内容の創造に努力することを確認する。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成・実施に関して、職員の共通理解を図る	平成30年度施行である新教育要領の内容を受け、教職員で理解し、毎日の保育と子どもの育ちに添わせるよう、情報交換を密に行い取り組んでいく。クラス運営を含め、教員の働き方を見つめ、職務の改善を行う。
園庭での園児の遊び・安全管理の共通理解	子どもたちの遊び方に伴い、安全管理について教職員で再検討をしながら話し合いの機会を多く持つていく。過去にあった怪我などの事故報告書を教訓とし、職員の意識を高め、園児の安全確保に努めていく。
保護者に幼稚園の活動をより良く知ってもらうための広報活動の充実	幼稚園における行事や活動及び、園児の成長等を広報することで、幼稚園で育つ子どもの姿を知ってもらい、子育て支援活動の一環として情報を発信していく。また、保護者との意思の疎通をより活発に行えるよう、一層の努力をする。個別懇談の機会を増やすなど、子育てについて話し合う場を持つ。

6 学校関係からのコメント

両親の心構えはどうか、幼稚園、父母の会の活動に協力したいという気持ちを持って欲しい。朝、帰りの際に門の所に先生が立って元気に明るく挨拶してくれると、子どもも親もとても安心した。（バスの運転手さんも）

平成29年度 自己評価書

平成29年12月4日  
アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。  
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○望ましい生活習慣の身についた子に  
○思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会		
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。また活動を計画する際、前年度の反省をもとに子どもたちの成長と環境に適した保育内容を組み立てている。	A	園庭が一部広くなり、子供たちの遊ぶ場所が広がったのが良い。子供たちでも工夫して遊んで行って欲しいと思います。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	年々各子どもたちへの対応が多様化しているため、多くのニーズにどのように答えていくか対策を検討している。	B	年々、外国籍の子供たちも増え、言葉の対応に少々困るのではないかと。親子で不安なき園生活を送れるよう努力して行って頂きたいです。	B
③ 師として資質、能力、適正等	自分の持つ能力に他者の技を取り入れ、幼稚園教諭の資質向上に努めている。	B	どこへ行っても一人ひとり挨拶ができるような子供が育つよう、引き続き指導をお願いします。	B
④ 保護者への対応	送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えていくようにしている。また見える保育を心掛け、写真掲示やホームページなどで子どもたちの日常の様子が見える取り組みも今後も続けていく。	B	色々な保護者の方もいますが、どの子どもも同じように日常の様子が見える取り組みが保護者の方々も安心して頂けると思います。	B
⑤ 地域の自然や地域との関わり	幼稚園バスに乗っての園外保育や、アソカ農園での野菜の収穫など、月に一度程度園外保育を計画し、地域や自然に触れる。また地域の介護センター訪問や、地域の小学生との交流を通して、地域に親しみ、社会性を育てている。	A	年少、年中、年長の介護センター訪問では、楽器演奏や歌を披露してくれると、センターの方々もとても和み、笑みもでて楽しい時を過ごせるので、今後も続けてほしいです。	A
⑥ 研修と研究	毎日のクラス活動が研修であると共に、他学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。また、年間目標に沿った個人研究をすすめている。ここ二年間行っている発声練習から始まる歌唱指導の成果があらわってきている実感できるようになった。三学期には、一年を振り返り、今後の課題を見つけていく。	A	発声練習は、子供たちの声もよく出るようになり、自信をつけさせるので良い取り組みだと思えます。	A
⑦ 外部アンケート	回答率は80%。回答内容は概ね良好だが、次回は回答率90%を目指し呼び掛けていきたい。また課題も見つけることができるため、今後の保育について、職員全員で考えていきたい。	B	これからも頑張ってください。	B

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている  
C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

子ども一人ひとりの成長を考えながら、子どもが充実できる保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、保護者からの支援・協力により、行事や日頃の保育が円滑に行われたことから、信頼関係の大切さを再確認することができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導を行い、机や水場等の消毒等環境にも配慮し、新しい空気の交換が行なわれている教室で保育する。園庭での自由あそびには、ボールあそび、縄跳び、遊具（うんてい棒や鉄棒など）に楽しく参加できるよう環境作りを行う。
社会・地域とのかかわり	特に年長児は小学校との交流を通して、進学への期待と学習意欲を高める。介護施設などへの訪問の機会をなるべく多く設けて、世代を超えた交流を進める。また地域への行事の参加を園としても各家庭に促していく。
安全管理	今年度、園庭を拡張したので、より広い範囲での安全管理を心掛けたい。園庭の遊具など、どれをとっても100パーセント怪我をしないというものではないが、子どもの身体の発達においては大切な物。幼稚園でのあそびが、必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、日々職員全員で認識し、確認しあっている。月はじめに乗務員、職員で遊具、園舎等の安全点検を行い、記録をしている。避難訓練は月に一度以上取り組んでおり、地域の防災連絡会にも参加し話し合いながら検討している。（地震、火事など想定を替えたり、様々な時間、活動での対応を行っている）

平成29年度 学校関係者評価書

平成29年12月15日  
アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。

○健康なからだ ○おもいよりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○ わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に

○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。また活動を計画する際、前年度の反省をもとに子どもたちの成長と環境に適した保育内容を組み立てている。	A	A
② 保育のあり方 幼児への対応	年々各子どもたちへの対応が多様化している中で、多くのニーズにどのように答えていくか対策を検討している。	B	B
③ 師として資質、 能力、適正等	自分の持つ能力に他者の技を取り入れ、幼稚園教諭の資質向上に努めている。	B	B
④ 保護者への対応	送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えていくようにしている。また見える保育を心掛け、写真掲示やホームページなどで子どもたちの日常の様子がわかる取り組みも今後も続けていく。	B	B
⑤ 地域の自然や地域 との関わり	幼稚園バスに乗っての園外保育や、アソカ農園での野菜の収穫など、月に一度程度園外保育を計画し、地域や自然に触れる。また地域の介護センター訪問や、地域の小学生との交流を通して、地域に親しみ、社会性を育てている。	A	A
⑥ 研修と研究	毎日のクラス活動が研修であると共に、他学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。また、年間目標に沿った個人研究をすすめている。ここ二年間行っている発声練習から始まる歌唱指導の成果があらわてきている実感できるようになった。三学期には、一年を振り返り、今後の課題を見つけていく。	A	A
⑦ 外部アンケート	回答率は80%。回答内容は概ね良好だが、次回は回答率90%を目指し呼び掛けていきたい。また課題も見つけることができるため、今後の保育について、職員全員で考えていきたい。	B	B

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている  
C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

子ども一人ひとりの成長を考えながら、子どもが充実できる保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、保護者からの支援・協力により、行事や日頃の保育が円滑に行われたことから、信頼関係の大切さを再確認することができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導を行い、机や水場等の消毒等環境にも配慮し、新しい空気の交換が行なわれている教室で保育する。園庭での自由あそびには、ボールあそび、縄跳び、遊具（うんてい棒や鉄棒など）に楽しく参加できるように環境作りを行う。
社会・地域とのかかわり	特に年長児は小学校との交流を通して、進学への期待と学習意欲を高める。介護施設などへの訪問の機会をなるべく多く設けて、世代を超えた交流を進める。また地域への行事の参加を園としても各家庭に促していく。
安全管理	今年度、園庭を拡張したので、より広い範囲での安全管理を心掛けたい。園庭の遊具など、どれをとっても100パーセント怪我をしないというものではないが、子どもの身体の発達においては大切な物。幼稚園でのあそびが、必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、日々職員全員で認識し、確認しあっている。月はじめに乗務員、職員で遊具、園舎等の安全点検を行い、記録をしている。避難訓練は月に一度以上取り組んでおり、地域の防災連絡会にも参加し話し合いながら検討している。（地震、火事など想定を替えたり、様々な時間、活動での対応を行っている）

平成29年12月14日  
アソカ学園 城北幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。  
 <健康なからだ> <おもいやりの心> <たくましい創造力>

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、教育内容と教職員の質の向上に更に努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況	自己評価
① 保育の計画性	週案を作成し日々の活動が単発にならないようにつながりを持った教育ができるように計画を立てている。	A
② 保育のあり方・幼児への対応	子どもたちの姿を肯定的に見ることで、教師の言葉掛けが変化し、園児が安心して活動に参加している。	A
③ 教師として資質、能力、適正等	教師としての自覚と責任を持ち、真面目に努力する姿が見られるが、専門知識や技能を身につける努力が足りないと思われる職員も見られる。	B
④ 保護者への対応	子どもの様子を連絡帳、電話などで伝えることを努力しているが十分とは言えない状態もあり、更に保護者への情報提供を積極的に行うようにしていく。	B
⑤ 地域の自然や社会との関わり	「キッズハウス」の回数を年間通して増やすことや対象児の年齢幅を広げることで参加者が増え、子育て支援センター的な役割も果たしている。	B
⑥ 研修と研究	「気になる子と言わない保育」を職員全員が所有し、研修のテキストとして使用し、職員間の意見交換を行う研修を進めている。	A
⑦ 外部アンケート	全体としては、肯定的な回答が多く、園の教育現状に理解を得ているが、反省すべき点や要望もあり、今後、改善に努力していきたい。	A

\*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている  
 C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

・園全体、学年毎の活動の共通理解を図る話し合いを職員間で重ね、活動のねらいを明確にすることで、見通しを持った教育活動ができた。  
 ・2学期から芝生の園庭が解放され、園児が開放感を持って遊ぶ姿が見られるようになった。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼児理解をより深め、子どもの発達に添った援助を行う。	・「気になる子と言わない保育」の研修を進めることで、日々の保育を振り返り、子どもを深くとらえ、理解することで、子どもたちが楽しく豊かな生活を作り出すことを学んでいく。
園庭などでの遊び・安全管理の共通理解	・園庭が広くなり、子どもたちの生活環境が大きく変わったことを受け、芝生広場を教育に生かすことを考えると共に、園児の行動を予想して安全に遊ぶことができる環境にしていく。

# 平成 29 年度 学校関係者評価書

平成 29 年 12 月 21 日

アソカ学園城北幼稚園

## 1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる  
 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。  
 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

## 2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、教育内容と教職員の質の向上に更に努める。

## 3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会		
① 保育の計画性	週案を作成し日々の活動が単発にならないようにつながりを持った教育ができるように計画を立てている。	A	今時、手書きで書いていることが素晴らしい。園長先生が週案をチェックし、アドバイスを書き込むなど、週案を通して園長先生と一緒に保育の振り返りが出来ている。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	子どもたちの姿を肯定的に見ることで、教師の言葉掛けが変化し、園児が安心して活動に参加している。	A	子どものすることを職員が肯定的に捉えてくれ、認めてあげている姿勢のおかげで子どもにも自信が伺える。	A
③ 教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任を持ち、真面目に努力する姿が見られるが、専門知識や技能を身につける努力が足りないとする職員も見られる。	B	*自己評価がBというところに向上心が伺える。 *今後の課題として、先生がどうしたら良いかをしっかり考えながら日々の保育をし、1年後にどうなったかの反省をする。保育にゴールはないが、その中でもその繰り返しが大変ではないか。	B
④ 保護者への対応	子どもの様子を連絡帳、電話などで伝えることを努力しているが十分とは言えない状態もあり、更に保護者への情報提供を積極的に行うようにしていく。	B	*先生が子どものいいところを見つけて、保護者にしっかりと伝えてくれる。子どもを肯定しながら見ているので、親として安心できる。 *小学校に進学後も子ども自身が自信を持って行動できていると実感している。“やってみよう”、“できるようになりたい”という気持ちを感じる。	A
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	「キッズハウス」の回数を年間通して増やすことや対象児の年齢幅を広げることで参加者が増え、子育て支援センター的な役割も果たしている。	B	*キッズハウスの回数を増やし、地域の子育て支援活動に貢献してくれている。 *子育ての孤独化の問題がある現代ではキッズハウスは救いになっているのではないか。	A
⑥ 研修と研究	「気になる子と言わない保育」を職員全員が所有し、研修のテキストとして使用し、職員間の意見交換を行う研修を進めている。	A	*「気になる子」の研修において、一つのテーマを職員間で話し合いながら意見を共有することで、職員全体の世界観が広がるのではないか。	A
⑦ 外部アンケート	全体としては、肯定的な回答が多く、園の教育現状に理解を得ているが、反省すべき点や要望もあり、今後、改善に努力していきたい。	A	子ども達のがのびのびと幼稚園生活を送っている姿を見ることができ、幼稚園に感謝している。保護者としても安心して任せることのできる幼稚園だと思う。	A

\*結果の表示方法

A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

## 4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・園全体、学年毎の活動の共通理解を図る話し合いを職員間で重ね、活動のねらいを明確にすることで、見通しを持った教育活動ができた。
- ・2学期から芝生の園庭が解放され、園児が開放感を持って遊ぶ姿が見られるようになった。

## 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼児理解をより深め、子どもの発達に添った援助を行う。	・「気になる子と言わない保育」の研修を進めることで、日々の保育を振り返り、子どもを深くとらえ、理解することで、子どもたちが楽しく豊かな生活を作り出すことを学んでいく。
園庭などでの遊び・安全管理の共通理解	・園庭が広くなり、子どもたちの生活環境が大きく変わったことを受け、芝生広場を教育に生かすことを考えると共に、園児の行動を予想して安全に遊ぶことができる環境にしていく。

# 平成29年度 自己評価書

平成29年12月12日  
アソカ学園 美波幼稚園

## 1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

◇健康なからだ      ◇おもいやりの心      ◇たくましい創造力

## 2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、共に育ち合いながら豊かな感性と健康な心身が育つように保育実践する。その為に、教師は日常保育の環境構成や子どもへの関わり、保護者の信頼を獲得できるよう、常に自身の保育力アップに努める。

## 3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
① 保育の計画性	教育課程や指導計画に基づき見通しを持ち保育実践を心掛けたが、日々の保育実務に追われがちで検証まで追いつかない場面があった。	B
② 保育のあり方 ・ 幼児への対応	健康視診や適切な言葉がけ、保育中の出来事など、職員間の情報交換を密にしながら、保育に努めた。	A
③ 教師として資質 能力、適正等	教員自身が保護者の立場に立ち、連絡や声掛け、アプローチ手段等の工夫に努めた。	B
④ 保護者への対応	お知らせや便りは明瞭な内容を心掛け、補足の必要な家庭には電話での再確認や連絡を増やした。	A
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	子育て支援活動「キッズハウス」の様子をブログで毎週更新し好評を得ている。	A
⑥ 研修と研究	得意不得意、ジャンルに関わらず、教員個々の課題（自由）を設け、保育に生かせるよう努めた。	B
⑦ 外部アンケート	A、B評定が殆どだが、僅かではあるがD評定もあったので検証を図る。	A

\*結果の表示方法 A 十分達成されている      C 取り組まれているが成果が充分でない

B 達成されている      D 取り組みが不十分である

## 4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。  
配布物や口頭での連絡事が保護者の理解度により、円滑な保育運営に支障が出る場面が増えてきているので、保護者への手厚い支援が必要になってきている。  
教員の社会性を高めながら、保育スキル向上に繋げ、ある程度の効果は出ている。

## 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者対応	引き続き、保護者ニーズの変化を調査考慮し、園運営全般において検証考察する。 養育常識の個人差が大きく、園からの連絡や指導は一方通行ではなく、確認と促しが今後必要となる。
発達に遅れがある園児、 順ずる園児のサポート	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解（面談機会を増やす等）を得ながら、より良い方向に向かうよう取り組む。
職員個々の人間力を アップする	今後も、社会人としてのスキルや立ち居振る舞い、また、社会性を高めながら、常に自身のアンテナを高くし、結果、楽しい保育・新しい保育を創造し実践できる保育者を目指す。

## 平成29年度 学校関係者評価書

(学)アソカ学園 美波幼稚園長 橋本憲幸  
美波幼稚園 学校関係者評価委員会

## 1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。  
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

## 2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、共に育ちあいながら豊かな感性と健康な心身が育つように保育実践する。  
その為に、教師は日常保育の環境構成や子どもへの関わり、保護者の信頼を獲得できるよう、常に自身の保育力アップに努める。

## 3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	教育課程や指導計画に基づき見通しを持ち保育実践を心掛けたが、日々の保育実務に追われがちで検証まで追いつかない場面があった。	B	保育以外の様々な園務で多忙な毎日だと思いますが、今後もよろしくお願いします。 B
② 保育のあり方 幼児への対応	健康視診や適切な言葉かけ、保育中の出来事など、職員間の情報交換を密にしながら、保育に努めた。	A	子どもの個人差に合った声掛けや見届けなど、子どもに寄り添った保育をお願いします。 A
③ 教師として資質 能力、適正等	教員自身が保護者の立場に立ち、連絡や声掛け、アプローチ手段等の工夫に努めた。	B	教員の個性を大事にしながら、個々の良さを保育に反映できるように望みます。 B
④ 保護者への対応	お知らせや便りは明確な内容を心掛け、補足の必要な家庭には電話での再確認や連絡を増やした。	A	保護者の理解力向上や提出期限を遵守する件など、保護者側の成長も必要と感じます。 A
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	子育て支援活動“キッズハウス”の様子をブログで毎週更新し好評を得ている。	A	就園前の集団に慣れる貴重な機会にもなっているため、活動（ブログ含む）継続を望みます。 A
⑥ 研修と研究	得意不得意、ジャンルに関わらず、教員個々の課題（自由）を設け、保育に生かせるよう努めた。	B	自己課題の達成や克服に向け、更なる自己研鑽をお願いします。 B
⑦ 外部アンケート	A・B評定が殆どだが、僅かではあるがD評定もあったので検証を図る。	A	良好な園運営が出来ています。 A

\*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている  
C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

## 4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。
- ・配布物や口頭での連絡事が保護者の理解度により、円滑な保育運営に支障が出る場面が増えてきているので、保護者への手厚い支援が必要になってきている。
- ・教員の社会性を高めながら、保育スキル向上に繋げ、ある程度の効果は出ている。

## 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保護者対応	引き続き、保護者ニーズの変化を調査考慮し、園運営全般において検証考察する。 養育常識の個人差が大きく、園からの連絡や指導は一方通行ではなく、確認と促しが今後必要となる。
発達に遅れがある園児、 順ずる園児のサポート	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解（面談機会を増やす等）を得ながら、より良い方向に向かうよう取り組む。
職員個々の人間力を アップする	今後も、社会人としてのスキルや立ち居振る舞い、また、社会性を高めながら、常に自身のアンテナを高くし、結果、楽しい保育・新しい保育を創造し実践できる保育者を目指す。

平成 29 年度 自己評価書

平成 29 年 11 月 29 日  
アソカ学園 追分幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる  
子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。  
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』  
○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携  
○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを期待へつなげる）

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
① 保育の計画性	子どもの自由なあそびの中からヒントを得て、環境の再構成を意識している。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	クラス全体が落ち着くことで、一人ひとりの様子がより深くみえてきている。	A
③ 教師として資質 能力、適正等	保育者としての責任と自覚を持っている。効果効率性の改善に取り組んでいる。	A
④ 保護者への対応	丁寧に行っているが、より一層積極的に関わりを持っていきたい。	A
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	地域の自然に関わるよう心掛けているが、もっと頻繁に行けるように計画したい。	B
⑥ 研修と研究	扱う教材の幅を広げる必要性を感じている。自然物の扱い方も再考する必要がある。	B
⑦ 外部アンケート	各項目で「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」が平均 97%と良好であった。	A

\*結果の表示方法 A 十分達成されている  
B 達成されている  
C 取り組まれているが成果が充分でない  
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・ PMT 活動の意義や内容を理解していただき、天候不順による日程変更などあったにもかかわらず参加者も増え、充実した活動が出来た。様々な「人」との交流が持てた。
- ・ 「家庭」との連携は丁寧に行っているが、頻繁にお迎えに来られる方とそうでない方との差が生じている。担任していない保護者との関わりも含め、積極的に関わりを持っていきたい。
- ・ 子どもが「意欲」につながる環境構成の見直しに取り組んでいる。園全体で盛り上がるような導入も成果が出てきている。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
環境構成	それぞれの教師が、あそびを発展していけるような教材研究を進め、お互いに情報交換し園全体で共有していく。
地域の自然	地域の自然と触れ合える場所に、多くかかわっていけるように計画的に学年やクラス単位で考える。

## 平成 29 年度 学校関係者評価書

学校法人 無憂樹学園追分幼稚園長 田村都弥  
 学校法人 無憂樹学園追分幼稚園学校関係者評価委員会

## 1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力
-------------------------------------------------------------------------------------

## 2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』 ○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携 ○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを期待へつなげる）
--------------------------------------------------------------

## 3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	子どもの自由なあそびの中からヒントを得て、環境の再構成を意識している。	A 子どもの自由な発想を伸ばそうとしてくれている。
② 保育のあり方 幼児への対応	クラス全体が落ち着くことで、一人ひとりの様子がより深くみえてきている。	A クラス全体と1人ひとりを見ることは大変な事、どの先生もきちんと向きあっている。
③ 教師として資質 能力、適正等	保育者としての責任と自覚を持っている。効果効率性の改善に取り組んでいる。	A 子どものためにも、先生の仕事負担軽減に取り組んでいることは良い事。
④ 保護者への対応	丁寧に行っているが、より一層積極的に関わりを持っていきたい。	A 教師が、担任ではない子やその保護者にも声掛けしようとしている姿がある。
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	地域の自然に関わるよう心掛けているが、もっと頻繁に行けるように計画したい。	B より頻繁に出かけて自然にふれられる等出来るよう、クラス単位で計画する事は良い。
⑥ 研修と研究	扱う教材の幅を広げる必要性を感じている。自然物の扱い方も再考する必要がある。	B 園で収穫した農作物や果物等を子どもに食べさせているのは良い経験になっている。
⑦ 外部アンケート	各項目で「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」が平均97%と良好であった。	A 優しくて、しっかりしていてステキな先生ばかりで頼もしく思う。

\*結果の表示方法 A 十分達成されている  
 B 達成されている  
 C 取り組まれているが成果が充分でない  
 D 取り組みが不十分である

## 4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PMT 活動の意義や内容を理解していただき、天候不順による日程変更などあったにもかかわらず参加者も増え、充実した活動が出来た。様々な「人」との交流が持てた。</li> <li>・ 「家庭」との連携は丁寧に行っているが、頻繁にお迎えに来られる方とそうでない方との差が生じている。担任していない保護者との関わりも含め、積極的に関わりを持っていきたい。</li> <li>・ 子どもが「意欲」につながる環境構成の見直しに取り組んでいる。園全体で盛り上がるような導入も成果が出てきている。</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
環境構成	それぞれの教師が、あそびを発展していけるような教材研究を進め、お互いに情報交換し園全体で共有していく。
地域の自然	地域の自然と触れ合える場所に、多くかかわっていけるように計画的に学年やクラス単位で考える。

平成29年度 自己評価書

平成29年12月14日  
アソカ学園 百花幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

\*健康なからだ \*おもいやりの心 \*たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、更に、教育、教員の質の向上に努めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	自己評価
① 保育の計画性	指導計画の見直しを月毎に行い、週日案は前週の子どもの姿に照らし合わせ、順応性のある内容になっている。	B
②保育のあり方 ・幼児への対応	子ども達を肯定的に捉える姿勢が職員間にあり、子ども視点を大切に活動を設定していく姿が見られる	A
③教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感を持って行動し、組織の一員としても行動でき、真面目に保育に取り組んでいる。	A
④保護者への対応	個々の子どもの様子を、連絡帳・電話などを使って伝えることを常に心がけている。時々保護者への連絡ミスがあるので緊張感を持って対応することを心掛ける。	B
⑤地域の自然や社会 との関わり	豊岡小学校に星組が“学校探検”を行い、進学に向けての意欲に繋がるように協力してもらっている。	B
⑥研修と研究	県振興協会や浜私幼などの研修会には積極的に参加し、夏季の学園の研修も充実した内容になっている。	A
⑦外部アンケート	回答率も91%で、回答内容も幼稚園の現状にほぼ満足していただいている結果になりました。より満足してもらえようように今後も努力していきたい。	A

\*結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが成果が充分でない

D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

年間の活動の立案では、マンネリ化しないように活動の意義や活動内容について十分に検討していくことを心掛けることにより、例年と違った活動の内容を立案し、子どもたちがより楽しむことができた。

反面”ももはなの森”の子ども達の活動が自由時間だけの時間に限られ、クラス活動との連携が少なくなっている。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園児がより喜んで登園し、充実した園生活を送れるようにする。	例年の教育に関するアンケートで、子どもが園生活を十分に楽しむことができていない園児がいると回答されているので、より子ども達が安心して生活を送れるように、子どもたちに寄り添った保育を心掛けていく。
“ももはなの森”のあそびの広がりを見ていく	”ももはなの森”の遊びが、自由遊び→一斉保育→自由遊びと流れを作りながら、子どもたちがより”ももはなの森”でのあそびを楽しむことができるようにしていく。

# 平成 29 年度 学校関係者評価書

平成 29 年 12 月 18 日

無憂樹学園百花幼稚園

## 1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる  
 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。  
 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

## 2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、更に、教育、教員の質の向上に努めていく。

## 3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会		
① 保育の計画性	指導計画の見直しを月毎に行い、週日案は前週の子どもの姿に照らし合わせ、順応性のある内容になっている。	B	週ごとの細かいカリキュラムを決め、それについての反省点や日々の出来事を、詳細に記録されていることを知り、子ども達に対する指導への姿勢を感じました。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	子ども達を肯定的に捉える姿勢が職員間にあり、子ども視点を大切に活動を設定していく姿が見られる	A	一人ひとりの子どもをよく観察し長所を発見する。また、子ども視点を大事にした活動をしていただけだと思います。	A
③ 教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感を持って行動し、組織の一員としても行動でき、真面目に保育に取り組んでいる。	A	全ての先生が熱心に保育に取り組んでいただいていると思います。また、園長先生が先生達をよく評価して指導されているので先生達のモチベーションも高いまま維持できているのだと思います。	A
④ 保護者への対応	個々の子どもの様子を、連絡帳・電話などを使って伝えることを常に心がけている。時々保護者への連絡ミスがあるので緊張感を持って対応することを心掛ける。	B	子どものことを気軽に先生に聞ける親と聞けない親がいるということもあり、電話などで連絡をくださり、気づかっただけの事はとても嬉しいです。	A
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	豊岡小学校に星組が“学校探検”を行い、進学に向けての意欲に繋がるように協力してもらっている。	B	豊岡小学校の学校探検では、星組さんの小学生になるという意識を高める良い経験になっていると思います。また、小学生にとっても卒園した幼稚園の園児や先生が来てくれることはとても嬉しく、成長した自分を見てもらえる場でもあるので、今後も是非続けて頂きたいと思います。	A
⑥ 研修と研究	県振興協会や浜私幼などの研修会には積極的に参加し、夏季の学園の研修も充実した内容になっている。	A	無憂樹学園学園6ヶ園での研修だけでなく、様々な研修に参加していただき、新しい情報を取り入れ、より良い教育を探求する姿勢にとっても感謝しています。	A
⑦ 外部アンケート	回答率も91%で、回答内容も幼稚園の現状にほぼ満足していただいている結果になりました。より満足してもらえようように努力していきたい。	A	アンケート結果に見られる「あまり当てはまらない」という少数回答にも目を向け、より良くしていこうと考えてくださっていることに、教育に関しての熱心さを感じました。	A

### \*結果の表示方法

A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

## 4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

午後の時間に子どもたちがより遊びだせる環境設定を工夫した。結果、電車ごっこが流行り始め、廊下や階段までビニールテープで線路を作り遊びが広がった。教師がその遊びを認め、援助する姿が見られ、子ども達の自由遊びを大切にしていこう姿が見られた。

反面”ももはなの森”の子ども達の活動が自由時間だけの時間に限られ、クラス活動との連携が少なくなっている。

## 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園児がより喜んで登園し、充実した園生活を送れるようにする。	例年の教育に関するアンケートで、子どもが園生活を十分に楽しむことができている園児がいると回答されているので、より子ども達が安心して生活を送れるように、子どもたちに寄り添った保育を心掛けていく。
“ももはなの森”のあそびの広がりを見ていく	”ももはなの森”の遊びが、自由遊び→一斉保育→自由遊びと流れを作りながら、子どもたちがより”ももはなの森”でのあそびを楽しむことができるようにしていく。